

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に法人の理念を基本とし、当ホームの理念を理解し、入居者様が穏やかに過ごせるように努めている。	法人の三つの理念と「明るく、楽しく、元氣よく・その人らしく輝いて・優しい心で・地域に根ざして」というホーム独自の理念を玄関入り口に来訪者にもわかるように掲示している。家族に対しては利用契約時に法人理念とホーム理念を説明している。職員会議の席上理念を唱和し、日々の支援を振り返り理念がケアに反映しているかどうか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や受診時で出かけた際、近隣の方への挨拶や保育園との交流を行っている。地域の方々や以前入所していた御利用者様のご家族から新聞紙・古布・花など提供していただいている。	お祭りや行事には町会から連絡があり寄付を納め、お祭りの時には神輿がホーム前まで来て披露をしていただいている。新型コロナの影響を受けボランティアの毎月来訪は自粛となっているが、例年であれば、当ホームへのボランティアも法人として年1回実施するボランティア定例会に参加していただき交流を深めている。また、例年、ホームに来訪し歌や踊りを披露し楽しいひと時を過ごしていた保育園児との交流も新型コロナで休止していたが、コロナが落ち着きを見せていることから再開されるようになりプレゼントが届けられたという。更に、例年であれば中学生の来訪も定期的にあり外出支援や傾聴ボランティア、ゲーム等で交流の時間を持っていたが、現在、休止中で、再開が待たれるところとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望時の方の施設見学の受け入れ・説明を感染対策を施し行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面にてご利用者様の様子や身体拘束廃止の取り組みの報告を行いました。	例年であれば奇数月の第4金曜日に運営推進会議を開催し、家族代表、民生委員、市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員などが参加し、利用状況、事故報告、身体拘束適正化に伴う報告、行事報告等を行っていたが、新型コロナのため対面での会議は中止し、書面で報告をし、意見・要望等を電話等でいただきホームの運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため御利用者様の様子や身体拘束廃止の取り組みについて運営推進会議の代わりとして書面にて報告を行いました。	例年であれば地域包括支援センター主催の交流会に参加し情報を得ているが、現在は中止となっており、電話等で情報交換している。今年度、6年に1度の指定更新となり、市高齢者介護課職員による実地指導が行われた。介護認定更新調査については利用者の受診日に合わせ家族に来訪いただき、市からの調査員と日頃の様子について話し合いを行っている。	

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を主として勉強会を開催したり、職員間での意見交換を行い、運営推進会議で外部の委員の方に報告を行っている。	ホームには身体拘束廃止委員があり、法人上田東ブロックで行っている月1回の会議に参加し、職員会議時に勉強会などを行っている。外出傾向の強い利用者がいるが、毎日のごみ出しに10分位職員と共に散歩をしたり中庭に出て外気に触れている。センサーマットを使用している方がいるがその理由を明確にし、家族了解のもと転倒防止のため使用している。玄関は街の中の交通環境も踏まえ、安全確保のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン研修を利用し研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご利用者様がいらっしゃる。後見人來園時の対応などを拝見させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約・運営規定・重要事項説明書を用意し説明を行っている。解約、改訂の際は資料添付の上説明を行っている。共にご理解いただいたうえで署名・捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診時や電話連絡の際などの時にご利用者様の様子をお伝えし御家族からご要望があればお応えできるよう努めている。	自らの要望を伝えられる利用者は半数弱で、その他の方については表情やしぐさから汲み取っている。新型コロナウイルス感染の影響を受け、年1回の家族参加の忘年会兼家族会が自粛となっている。また、年6回、2ヶ月毎にワゴン車2台で外出を計画し、5～6組の家族が参加していたが、こちらも中止となっている。誕生日会についても同様で例年家族の参加もいただいていたが、中止となっている。そうした中、利用者の定期受診の際には家族に付き添いをお願いしていることから面会の機会がある。家族には法人の上田地区の広報誌「ふれあい」が配布され、グループホームのページもあることから楽しみにしている方も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員それぞれと業務や利用者様についてなど話を聞く機会を設けるよう努め必要なサポートや改善を行っている。	新型コロナの影響を受け月1回の職員会議は職員の多くいる時間帯に行い、法人の研修もオンラインで参加するようにし、資料等の回覧をしている。法人の人事評価制度に伴う自己評価は毎月行い、個人面談も管理者が年3回行い、年末にも行い賞与等に反映している。例年であれば法人で職員アンケートを実施し、日帰り旅行、ボーリング、サッカー等の法人内の職員交流行事も実施していたが、今年度は休止となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を利用しながら職員面談を行い、やりがいを持てるような目標設定できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修を利用し毎月研修を行っている。外部研修への参加も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で情報を共有し、他施設での取り組みを紹介しあいサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の聞き取りを行い気軽に話をしていただけのような関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い要望等をお聞きしサービスに繋がられるよう努めている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や、相談を受けた際には、必要とされる支援や他施設の提案・紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業や料理など日常的な作業と一緒に、行ったり、食事を共にした生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診はご家族にお願いし、ご利用者様とご家族様との関りを大事にしながら情報を共有できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を定期的に利用できるよう支援を行っている。コロナ禍のため会えない方々も電話をかけてきてくださる。	新型コロナの前は近所の人や兄弟、孫、親戚が面会に来て会話を楽しんでいたが基本的に現在は自粛となっている。利用者のキーパーソンから了承を得た方がホーム玄関で時間を限りビニールシート越しに面談をしている。また、馴染みの美容院に家族と共に行く利用者もいたが、現在は近くにある同じ法人の複合施設で訪問美容を利用している。更に、毎週金曜日には馴染みのパン屋がホームに継続して来訪しており、職員を介しての買い物も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員を介してご利用者の皆さんが関りを持 てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替え後も御利用者様の近況の把握。 必要時は施設への情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	お聞きしてもわからないといわれる方もい らっしゃいますが、日常会話や行動の中でく みとれるよう努めている、	自分で意思表示の出来る方が半数弱、行動や表情か ら意向を読み取る方が半数強という状況で、1日の行 動パターンを把握し、昼食やお茶の時間に言葉を選び 投げかけ、希望を引き出すようにし支援している。家 族から聞いた生活歴は入居時のアセスメントとして記 録し、それ以降の日々の言動等は申し送りノートにま とめ、職員間で情報を共有し支援に繋げている。遠慮 がちな利用者については居室にて1対1で話をする時 間を取り、意向を受け止めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人、御家族や入所前に担当されたケア マネより情報提供をいただき生活支援ブラ ンに取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	継続できる日課は続けていただき軽作業な どで何ができるか、その作業がその方に とってやりがいにつながるのかなど様子観 察を行いながら関わっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	サービス会議や状況の変化時などに職員・ 看護・医療・御家族などと話し合いを持っ ている。	職員は2～3名の方の居室を担当しており、居室掃除、 散歩や外出時の付き添い、家族との連絡等を行って いる。モニタリングは担当者が3ヶ月毎に家族と電話や 受診付き添い時に来訪した際に要望等を聞き、ケアマ ネージャーに意向を伝え、ケアプラン実行表なども振 り返りケアプランの見直しを6ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子は介護記録に記載している。 特記事項は別に記載し、気づきや工夫した ことなどはノートに記載して情報の共有して いる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の都合等に対応して受診の付き添 い・送迎、緊急時の入院の付き添い、買物 の代行など対応している。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	古布や新聞紙・衣類の寄付をしていただいている。クリスマスリース・門松など季節を感じられる物の寄付もありました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。家族の対応が難しい方は往診の対応をしていただいている。急変時など相談・対応していただけるよう連携をとっている。	在宅時からのかかりつけ医を継続しており、家族対応で定期的に受診している。体調に変わりがない場合は3ヶ月に1回受診し、薬は医師と相談し月1回処方していただいている。同じ法人の訪問看護ステーションより週1回看護師が来訪し健康管理を行い、24時間オンコール対応となっている。歯科についても家族対応で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を結んで定期的な訪問の中で情報の共有・相談を行っている。特変時など医療的支援が必要になった際は指示を受け適切な対応ができるよう連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、御家族の意向も確認しながら情報の交換・共有を行い入退院の対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人としての看取りの指針を基に入所申し込み時に説明を行い、御家族の意向を確認している。入浴など、ターミナルケアの対応が難しいので入院・住み替えを希望されることが多い。	入居時に「重度化や終末期に向けての方針」を説明している。往診対応の主治医が見つからず看取り対応は行っていないため、引継ぎを確実にし、法人の他施設に移り住んでいただいている。重度化した場合は家族と話し合い、可能な限り当ホームで過ごしていただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で救急法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と消火器訓練を実施している。うえた敬老園と災害時の協力体制をとっている。	年2回春と秋に避難訓練を行い、昼と夜間を想定し、内1回は消防署の参加の下消火訓練も行っている。利用者は全員参加し玄関までの避難訓練を実施している。例年であれば市主催の「防災会議」に出席しているが、新型コロナのため中止となっており、夜間一人体制で何ができるか、職員間で話し合いを行っている。万が一の場合には近くにある同じ法人の複合施設からの応援が得られるようになっている。備蓄については「水」「レトルト食品」「缶詰」「米」等を3日分備えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会に職員1名配属している。オンライン研修に参加。女性職員を希望されるご利用者様には女性職員が対応している。	当グループホームが属する法人の上田東ブロックにはサービス向上委員会があり、当ホームでも職員1名を委員として配置している。委員会は現在、オンラインで実施されており外部講師を招き研修会などを実施し、研修内容はホーム職員に伝えられている。言葉遣いについてはその都度職員間で注意合っており、マナーチェック表により年2回自己チェックを行い、振り返りをしている。入浴や排せつ介助について同性職員を希望する利用者には同姓職員が対応し、職員間で協力し合っている。入室時にはノックと声掛けを行い、居室でのプライバシーに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢をを利用した声がけにて自己決定していただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をしたいかなどご本人の意向をお聞きしながら希望に沿った支援を提案している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容をお手伝いしている。定期的美容室・散髪に行かれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会にご本人の希望のメニューや時節柄のメニューをお出ししたりしている。下準備・盛り付け・片付けなど御利用者と一緒にやっている。	その日勤務の職員が利用者の好みを聞き、食事づくりを行っている。その際、利用者も盛り付け、食器拭き、下ごしらえのお手伝いを一緒に行っている。介助を必要とする方がいるが大半の方は自力で摂取できている。ミキサー食、トロミ付き、刻み食、常食など一人ひとりの利用者に合わせている。また、おはぎづくり、スポンジケーキへの飾りつけなども行っている。行事、誕生日には利用者の希望を聞き豪華なメニューにして楽しんでいる。利用者家族から野菜、お米などが届き、食卓に上っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合った食事形態で提供している。水分量の記録を取り、好みのものをお出したり、声がけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔用のティッシュを用いたりし、それぞれの方に合った口腔ケアを実施している。義歯使用の方は洗浄剤を使用し清潔の保持に努めている。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	装具使用の為、おむつを使用していたが、リハパンを使用しトイレを使って排泄をできるよう支援を行っている。	布パンツで自立されている方、リハビリパンツとパットの方など、一人ひとりに合わせ対応している。半数強の方が一部介助で、全介助の方もいるが、できるだけトイレで排泄できるようにしている。排泄パターンを把握し、起床時、食事前後、臥床前に声掛け誘導し、また、随時の声かけで失敗することのないようにしている。食事、おやつ時に水分、乳製品等を提供し、排便促進に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分促し、ご自分でできる動きは行っていたり声かけし運動量を増やしたりしている。下剤も使用し、医療との連携を取りながら排便のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし、希望や体調に考慮し入浴していただいている。女性職員希望時は女性職員が対応している。	週2回の入浴日には、利用者一人に対して職員が一人で支援し、出来ることはやっていたりしている。重度化するとシャワー浴か職員二人で介助を行っている。同性職員の介助を希望する利用者についてはその日の勤務を変更し対応している。入浴拒否がみられる利用者がいるが、声掛けに工夫したり日を変え入浴していただいている。入浴剤は季節に合わせて使用し、菖蒲湯、ゆず湯なども楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意向を確認しながら休んでいただいている。室内温度や明かりなどご本人の希望をお聞きしながら、管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様ごとに服薬内容をファイリングされており、職員それぞれが理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、軽作業を通してそれぞれの嗜好や楽しみを共有できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員・その日の勤務者と個別で外出できる機会を設けている。	新型コロナ前は年6回、ワゴン車2台を用意し利用者全員が職員の付き添いで外出していたが、今年度は自粛傾向となっている。また、その際、家族には1年を通して全家族が参加出来るように希望の曜日を聞いて調整していたが同じく現在は自粛している。そうしたコロナ禍の中でも花見や蓮の花の見学にドライブがてら出掛け、試行外出として日曜日に複合施設のワゴン車を借り同じ法人の温泉付きにしうち敬老園まで出かけカラオケを楽しまれたという。例年であれば昼食は道の駅にお弁当を予約し楽しんでいただいている。	

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持はされていませんが、毎週金曜日にパン屋さんが来園された際、買物を楽しまれている。(一部ご利用者様)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望するご利用者様はいませんが、御家族からのお電話を楽しまれているご利用者様がいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感ある飾りを工夫している。道路側の窓は日当たりが良いので、状況に合わせカーテンの開け閉めで調整を行っている。	玄関入り口近くには交流している保育園から贈られた絵が貼られている。廊下には行事の時に過ごした写真が一面に貼られおり、楽しんでいる利用者の姿を窺うことができた。訪問調査当日、ほぼ、日中、ホールで過ごす方の姿を垣間見ることができた。新型コロナで外出がなかなかできないが、中庭に出て、あじさいをみたりして気分転換している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士、希望される居場所が決まっていって思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や使い慣れたもの、馴染みのものを持参していただいている。ラジカセ・テレビなど用意していただき居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室にはエアコンが備え付けられており快適に過ごせるようになっている。自宅からの使い慣れたタンスや衣装ケース、ラックなどを持ち込まれている利用者があり、自由に生活していることが窺えた。家族の写真が壁に貼られている居室もあり、間取りも日本家屋の名残を残し、落ち着いた環境の中で居心地よく過ごしていることを窺うことができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人のできること、支援を必要とすることを考え見極め自立できることは見守り安全に生活できるよう努めている。		